

第 1 回太陽光パネルリサイクル WG に関する意見

東京大学先端科学技術研究センター 飯田誠

本日所要により出席できませんので、意見書を提出させていただきます。

(スライド 17, 25) : 排出量の予測において、単純な耐用年数から試算される排出量と思慮させる。他方で処理実態の排出要因からわかるように、必ずしも耐用年数を全うしたものばかりではない点は、留意が必要と感じます。排出状況の実態調査を継続していくとともに排出量予測をいくつかのシナリオをベースに検討し、修正・更新していく必要があると思います。今後太陽光パネルの追跡を行うことも視野に入れた実態調査を進めていくことが重要だと思います。なお、技術進展や処理施設の状況を検討していくためにも、理想的な資源循環を構築することを最終目標としつつ、段階的な目標・ロードマップを検討できると各種技術開発や設備支援などの目安になると思います。

(スライド 23) : 太陽光発電事業に係るステークホルダーは可能な限り洗い出しておいた方がいいと思います。例えば発電事業を行うために金融機関や投資機関などからの投融資を受ける場合に、環境に配慮した取り組みなどがあれば、金利面などでの優遇措置を講じる方法など、民間の活動からリユース・リサイクルを誘発していくような取り組みの検討もできると思います。

(スライド 34) : 風力発電設備については、記載の通りかと思いますが、世界的にはリサイクルしやすい風力発電設備の開発検討なども進められていることから、国際的な情勢を適切にキャッチアップし、世界的に後れをとらない措置、そのための予備的調査や開発計画の検討などは進めたいと思います。

(スライド 36, 37) : 小規模な住宅用などの太陽光パネルは、古いものも散見される中、太陽光パネルの効率は向上しています。省エネ家電への買い替え支援のような新しいものへのリプレイス支援などを進めることは、排出量の平滑化などの効果が期待できると思います。また、卒 FIT 後に適切なチェックのもとで運用を延長可能とする取り組みを支援できれば、同様にピークの平滑化が期待されると思います。＜費用についての論点＞に記載の（非 FIT の）解体・撤去・運搬に係る費用は設置者が適切だと思います。FIT の設備については廃棄等の費用積立制度で徴収されているものを活用する方法が検討の一つかもしれませんが、発電事業者などとの情報交換を丁寧に議論いただくことを期待します。再資源化にかかる費用は製造業者は一案ではありますが、海外メーカーや現状で管理ができていないものに対してどのように制度を実装できるかは、十分な検討を期待します。＜情報についての論点＞において、情報管理の在り方について記載がありますが、所掌範囲がどの省庁になるかにも関係するかもしれませんが、製品安全や品質の管理を行っているような組織

が行うことができれば、構成素材の記録や管理にもつながると思いました。また、以降で参考となる法律などの紹介もありますが、どのような状態で（例えば系統から外れた時点など）それぞれの法律や所掌範囲になるのか、定義の明確化と整理をお願い申し上げます。

以上